

樹自七八月至九十月、毎旦采茄子七八個、作蔬、其法前年九月、先掘好地、方三尺深三尺許、以爲窖、窖中充糞、至十一月十二月、其糞乾減半時、復取溝渠泥以充其半、至正月又減半時、取園圃之好土、以充其半、經四五日、鋤耕其窖中之糞土、取出攤于地上、暴乾十日餘、而別復用好土揉合、以埋窖中、與地令平均、至春二月彼岸時、耕其糞土下種、其苗至五六寸許、殘留其中最長者五個、而要長後枝葉不相捎、若相捎易枯、其餘苗悉拔去、移栽于他圃矣、五個殘苗過尺時、於早晨日出已前、用好硫黃細末、入馬尾篩飛于苗上、則不生油蟲黑蟲也、

〔農業全書卷三〕茄

なすびに紫白青の三色あり、又丸きあり、長きあり、此内丸くして紫なるを作るべし、餘はおとれり、丸きは味甘く和らかにして肉實し、料理に用ひ能煮ても、みだりにとけくたくる事なし、かうの物其外にも専ら是を用ゆべし、又長き茄子にをそく老て大なるあり、是又よきたねなり、種子を收め置事、二番なりのうるはしきに札を付置、九月よく熟したるをわりて、子を水にて洗ひ、洗たるをゆり取、其ま、よくさらし乾し、さらくとする程よく干たる時、收め置べし、又丸ながら庭の火たくあたり埋み置て、春ほり出し、洗ひゆり取、灰に合せ蒔もよし、是早く萌るなり、又二つにわり、かづらなどにつらぬき、軒の下につりをきて、蒔時ぬる湯にひたし、しばし有て子を洗ひ取、灰沙に合せ蒔もよし、苗地の事、冬より度々うち、細かにこなしをきたるを、正月早くこゑをうちよくこやし、細かにこなし塊少もなくして、畦作り横三尺あまりにして、正月雪きえて蒔べし、所により二月の中を以て蒔たるもよし、又一説に、苗地をいかほどもよくこしらへ熟しをき、三月の初雨を得て蒔たるは、二月蒔たるにをとらず、却て早く生ずるものなり、或盛長の早きを望む者は、種子を灰と肥たる細土に交せ、ゆるりの邊り火氣近くをき、又あたゝかなる日は、外の日にあて、家の内にて萌たるを、世間漸く暖かになりて後、よく才覺して、苗地にうつすべし、